

～畜産安心ブランド生産農場だより～

畜産物市況

㈱三国は「クリーンビーフ生産農場」です

小千谷市：
片貝農場長 藤原 洋一 氏

当社では、平成17年から(社)新潟県畜産協会が推進している、畜産安心ブランド生産農場認定事業に取り組み、片貝、川口の2農場はクリーンビーフ生産農場として認定されました。当社では、BSE発生以降、食の安全・安心かつ高品質な食品に対する消費者ニーズが高まっていることから、健康な牛を飼養し安全な牛肉を生産するために「HACCP方式」を取り入れた「クリーンビーフ」という畜産安心ブランド生産農場として、安全・安心な牛肉の供給に取り組んでいます。

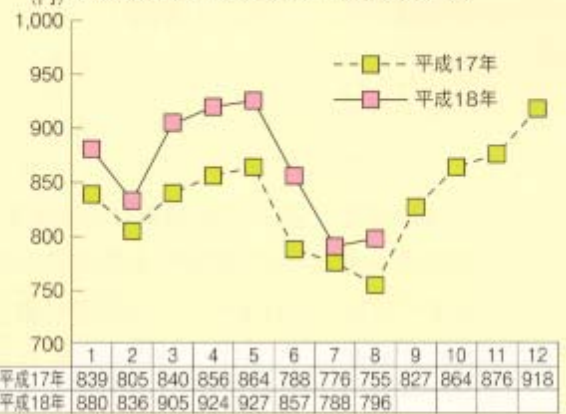
農場では、従来から飼料管理簿、作業管理簿などの記録は行っていましたが、牛の個体管理などの記録が徹底されていませんでした。しかし、この事業により出荷までの管理獣医師による治療歴などの記録が残り、個体管理がスムーズに行われるようになりました。現在、クリーンビーフ生産農場数は、10農場と少ない状況ですが、まず、県内の消費者の皆様がこの制度を知ってもらい安心して牛肉を購入してもらえることにより、認定農場も増加し「新潟県産牛肉」の消費拡大へ繋がることを期待しています。今後とも、安全・安心な牛肉の生産に取り組んでいきたいと思っています。



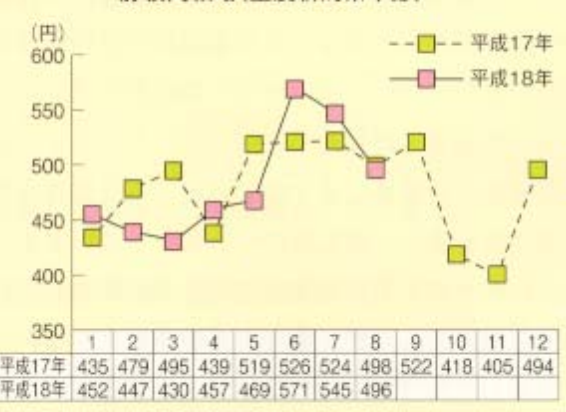
牛枝肉相場・和牛去勢A-4(東京市場)



牛枝肉相場・乳用種去勢・B-2(東京市場)



豚枝肉相場(全農新潟県本部)



編集後記

今年の秋は天候に恵まれ、稲わらの回収も十分にはかどっているように見えます。本県の風物詩であった稲のはざかけは今ではほとんど見られませんが、最近ではコンバインで刈り取った後の稲わらをロールベールで梱包したものが田んぼのあちこちに見られます。これが、最近の新潟県の秋の風物詩に変わりつつあります。畜産農家にとっては、稲わらは貴重な大家畜の粗飼料として有効であります。ただ、稲わら等の利用が減少傾向にあるのは気がかりな点であります。輸入稲わらについては、病気(海外悪性伝染病)や砒素含有等の不安もつきまとい安心しての利用ができません。地域資源を有効活用し安全で安心な畜産物の生産に心がけたいものです。(花田)